

事業所における自己評価総括表

○事業所名	ほっぶ姫路		
○保護者評価実施期間	2026年1月15日 ～ 2026年2月10日		
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	31	(回答者数) 18
○従業者評価実施期間	2026年1月15日 ～ 2026年1月25日		
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	9	(回答者数) 9
○事業者向け自己評価表作成日	2026年2月6日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	支援プログラムの充実	職員全員がアイデアを持ち寄り、あらゆる視点で活動内容を考えている。社会において必要なスキルを重視し、継続的に行うものや変化を楽しめるようにする内容など。中には、児童が好きな物や得意なことを楽しめる活動内容も含み、楽しみに通所できるようにしている。	児童が楽しく身につく支援と保護者目線で取り組む支援をより深めて思索する。保護者からのアンケート実施や日々の会話からニーズを引き出し、それを踏まえた内容を模索していく。
2	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっている	学習空間、余暇空間など活動に応じて場所を明確にしており、落ち着きたい時や児童同士のトラブルが起きた際に事務所への誘導ができるようにしている。	パーティションの活用やマット、テープでの位置確認など視覚的に分かるように今後も活用していきたい。
3	児童が通所を楽しみにしている	一人一人の児童に対しての関わり方や職員同士の共有事項の確認などを定期的に行っている。職員同士の風通しの良さなども教室の雰囲気や和やかにしている。保護者への連絡やコミュニケーションも日々行い、安心感をもって利用できるようにしている。	保護者から、児童本人からのニーズを聞きながら教室の雰囲気、内容、関わり方をより良くできるように努める。職員内の会議や外部研修なども引き続き参加していく。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援	曜日や時間帯の確保の難しさ、交流に関しては、他者に知られたくないという保護者の意向が多数あり開催が困難。	交流希望者のみの開催や、事前のアンケート実施による日時の確保に努める
2	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会	保護者の意向でそれらを望まれていない方がいると、その児童だけ参加しないこともできないため、実施に至っていない。地域の他の子どもと活動する、という状況を模索している段階で、現時点ではお声掛けする会やグループが見つからない。	事前のアンケートをとり保護者や利用者の意向を聞き、交流に向けての計画や内容を周知していく。
3	家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等	家族支援プログラムについて取り組みを開始していないことが要因。送迎時や連絡ツール、担当者会議等で話す機会があり、成り立ってしまったので、それに加えて研修会やその他の機会を設けていない。	保護者にアンケートをとり、家族支援として事業所側や家庭で継続できる支援内容を決め、提供できるように機会を設ける。研修会等気軽に参加できそうなものを探していく。